

主要農産物の生産販売状況について

令和7年8月21日
生産振興課

本県の主要農産物の生産販売状況（8月7日現在、JA全農ととり取扱分）について報告します。

1 主要品目の生産販売状況

(1) 生産状況

- ・らっきょうは高温等で当初生育が遅れたが、生育期間中に適時降雨もあったことから10a当たり収量は前年よりも多くなったものの、栽培面積が減少していることから生産量は前年を下回った。
- ・すいかは肥大良好で大玉傾向であり、8月7日時点で前年対比100%の出荷量となっている。
- ・ブロッコリーの初夏どり作型では秋冬作の収穫遅れ等により、作付面積は減少したが、越年作型を含む最終出荷数量は前年を上回った。
- ・春ねぎは11月の大雨による湿害や春の高温による抽苔（花茎の発生）等により出荷量が減少した。夏ねぎはおおむね順調に生育していたが、高温・乾燥により現在、生育は停滞ぎみである。

(2) 販売状況

- ・らっきょうは市場販売の最終出荷量は前年比85%と減少したが、単価は安定して推移したため、販売金額は前年比91%の低下にとどまった。
- ・すいかは観測史上最速の梅雨明け、その後の高温等により引き合いが強く、過去最高単価を更新しており（260円/kg）、36億円を超える販売額となっている（令和6年産最終販売額は35億1千万円）。
- ・初夏どりブロッコリーは他産地（四国、長野）との競合により平均単価は低く、販売額は前年を下回った。
- ・白ねぎの単価は前年を上回っているが、出荷量が減少したため、販売額は前年を下回っている。夏ねぎでは、梅雨明けが早かったことにより土寄せができず、軟白長が短いほ場があるため、JA西部では盆明け以降の出荷分から一部規格の緩和が予定されている。

【らっきょう】

区 分	面積 (ha)	生産者戸数 (戸)	5月22日～6月19日までの販売実績(最終、累計、全農)		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
R7年度	149	181	1,287	685	882
R6年度	163	199	1,516	643	974
前年比	91%	91%	85%	107%	91%

【すいか】

区 分	面積 (ha)	生産者戸数 (戸)	5月29日～8月7日までの販売実績(累計、全農)		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
R7年度	266	359	14,041	260	3,651
R6年度	268	357	14,033	251	3,516
前年比	99%	101%	100%	104%	104%

【初夏どりブロッコリー】

区 分	面積 (ha)	生産者戸数※ (戸)	4月1日～7月17日までの販売実績(最終、累計)※※		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
R7年度	166	498	1,760	343	602,775
R6年度	180	515	1,754	380	667,180
前年比	92%	97%	100%	90%	90%

※全作型を含む。 ※※一部、越年作型を含む。

【白ねぎ】

区 分	面積 (ha)	生産者 戸数 (戸)	4月1日～8月7日までの販売実績(累計、全農、全作型)		
			数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
R7年度	317	801	1,242	400	497
R6年度	314	841	1,490	383	571
前年比	101%	95%	83%	104%	87%

(次頁あり)

2 その他主要品目の生育状況

(1) 水稻

① 作付状況

- 令和7年産の主食用米作付面積は、11,974ha で前年対比約400ha の増となっている。
県内主要品種の作付面積の推移（備蓄米含む）

(単位:ha)

	R2	R3	R4	R5	R6	※R7 見込	前年比	品種比率
ひとめぼれ	2,647	2,502	2,247	2,109	1,986	1,982	△ 4	17%
コシヒカリ	4,647	4,473	4,475	4,327	4,094	4,124	30	34%
きぬむすめ	3,620	3,415	3,172	3,042	3,113	3,371	258	28%
星空舞	1,036	1,257	1,309	1,411	1,486	1,539	53	13%
その他	891	867	832	870	901	958	57	8%
主食用米計	12,840	12,514	12,036	11,759	11,580	11,974	394	—

注1)鳥取県農業再生協議会調べ

注2)令和7年度は4月末時点の集計値

② カメムシ類（イネカメムシ・斑点米カメムシ類）の発生及び対応状況

- イネカメムシ及び斑点米カメムシ類の発生が多く、活動に好適な気象が続くと見込まれたことから、7月11日、22日にそれぞれ病害虫発生予察情報を発表し、防除の徹底を呼び掛けている。
- 病害虫発生予察注意報と併せ、7月17日に「イネカメムシ・果樹カメムシ類発生緊急対策会議」を開催し、防除の徹底等を呼びかけた。さらに、県内主要品種の出穂ピークに合わせ、7月28日から全県の水稲農家に向けて注意喚起を実施している。（JAによる広報に加え、ポスター配布、ケーブルテレビCMを実施）
- 一昨年、発生が顕著であった県西部地区では、昨年度から、県、JA、防除事業者等による「イネカメムシ対策会議」を開催し、情報共有や対策の検討、防除体制等の確認を行っている。
- 出穂期を迎えているほ場では、すでに薬剤防除で対応している。

予察灯におけるイネカメムシの誘殺数

調査時期		鳥取市			岩美町			琴浦町			日吉津村		
		R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7	R6	R5	R7	R6	R5
7月	上旬	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	中旬	3	1	0	6	0	0	0	0	0	7	0	0
	下旬	5	0	0	9	0	1	0	1	0	1	4	0
8月	上旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0

水田における斑点米カメムシ類の発生状況(8月5日～8日に実施したすくい取り調査結果)

	ほ場数	アカスジカシカメ	ホソハラカメムシ	トゲシラホシカメムシ	クモヘリカメムシ	イネカメムシ
東部	33	7.2 (66.7%)	0.4 (15.2%)	0.2 (15.2%)	0.3 (27.3%)	0.1 (9.1%)
中部	18	4.4 (66.7%)	0.1 (22.2%)	0.0 (0%)	0.1 (16.7%)	0.1 (16.7%)
西部	33	3.9 (39.4%)	0.4 (6.1%)	0.9 (21.1%)	0.4 (18.2%)	1.6 (18.2%)

※捕虫網25往復50回振りすくい取り調査による1ほ場当たりの平均虫数、()内は発生ほ場率。

⇒全体にアカスジカシカメの発生が多い傾向で、一部でイネカメムシの発生が多いほ場も認められたが発生ほ場率は高くない。

(2) 梨

ハウス二十世紀は8月2日（前年2日）から販売が開始され、前年を上回る高単価で推移。梅雨明け以降の高温・干ばつの影響で肥大が鈍り、8月8日時点では、2L中心のL寄りと小玉傾向である。